

津波の発生メカニズムなどを学ぶ児童たち



小中野小で八工大出前授業

津波の仕組み「なるほど」

八戸市立小中野小(小野一樹校長)で10日、津波出前授業が行われた。八戸工業大工学部土木建築工学科の竹内貴弘教授が、津波の起こるメカニズムなどについて実験を交えて解説。児童たちは真剣に耳を傾け、防災意識を高めた。

同校は本年度、笹川平和財団の「海洋教育パイオニアスクール

校」の指定を受けており、出前授業はその一環。5、6年生109人が参加した。

竹内教授は、海溝型地震の発生など急激な海水面の変化で津波が起ることを説明。

津波を発生させる実験器具を使い、海水面の違いによって波の伝わる速さが変わることなどを解説した。その

上で津波が発生した際には早期に避難する必要性を強調し、「皆さんも日頃から自分で考えたり判断したりすることが大切」と呼び掛けた。

5年の木村ひなたさん(10)は「実験で津波の仕組みが分かった。自分で考えて行動することを身に付けたい」と話した。

(須田山裕太)